チャオ・ベトナム

JAPA VIETNAM 会報

NO.52　　発行者：ジャパ・ベトナム事務局　発行日：2016 年 10 月 28 日

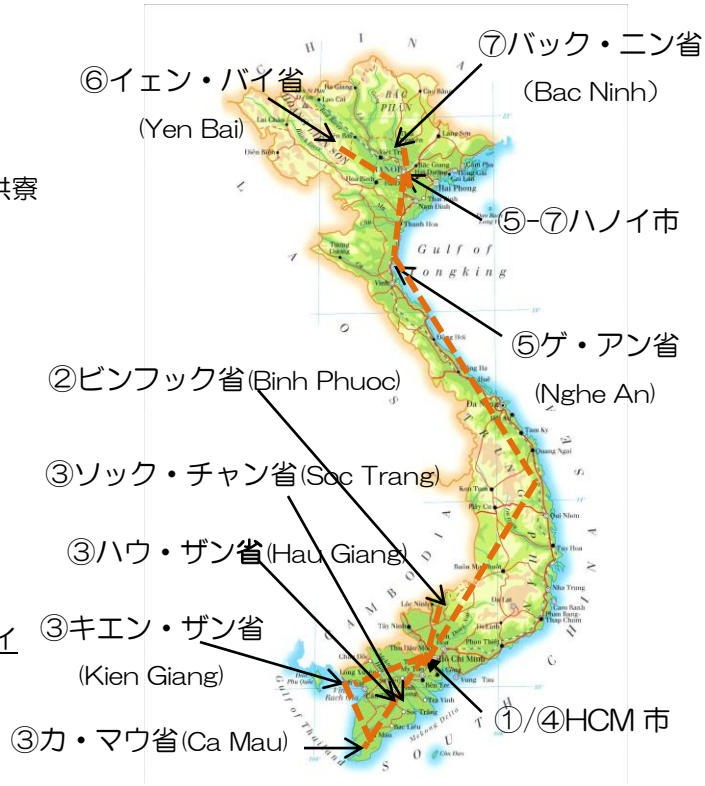
◆2016 年ベトナム視察ツアー　・・・・・1
◆ダン・ハ村の「ヤギ銀行」プロジェクトを訪ねて　・・・・・・・・・・・・・2/3
◆キエン・ザン省コー・チャンの雨水槽・・・4
◆イェン・バイ省フィン・ホ村　少数民族の村を訪ねて　・・・・・・・・・・・・・・5/6
◆寄付者一覧、お知らせ　・・・・・・・・・・7
◆会計報告　・・・・・・・・・・・・・・・・・8

2016年ベトナム視察ツアー

中野　孝文

今年も９月３日（土）～９月 16 日（金）の日程で、ベトナム支援先視察ツアーを行いました。このツアーは毎年実施しているものでジャパ・ベトナムの全ての支援先を訪問し、支援先の現状の把握、支援プロジェクトの進捗状況視察、今後の計画などを話合います。今回は日本から６名、ベトナムから７名の参加（部分参加を含む）がありました。
この No.52 と来春に発行予定の No.53 の両号にて訪問ツアーの内容をご報告いたします。

①9/4　HCM 市内
◆スラム自立支援グループ
◆エイズ子供支援グループ
②9/5～9/6　HCM⇒ビン・フック省⇒HCM
◆ロン・ディエン(Long Dien)少数民族子供寮
◆ダン・ハ(Dang Ha)少数民族ヤギ銀行
③9/7～9/10　HCM⇒メコンデルタ⇒HCM
◆ダイ・ハイ(Dai Hai)橋補修
◆フン・ヒエップ(Phung Hiep)小学校
◆フー・タン(Phu Tan)老齢・障碍者
◆コー・チャン(Co Trang)貯水タンク
④9/12　HCM 市内
◆エイズ診療所
◆ファンド・レイジング訪問調査
⑤9/13　HCM⇒ゲ・アン省⇒ハノイ
◆フン・チュン村（Hung Trung）診療所
⑥9/14　ハノイ⇒イェン・バイ省⇒ハノイ
◆フィン・ホ少数民族
⑦9/15　ハノイ⇒バック・ニン省
◆バック・ニン/タイ・グエン AIDS 家族自立



ダン・ハ村（Dan Ha）の「ヤギ銀行」プロジェクトを訪ねて

五井　邦宏

「チャオ・ベトナム」No.50 の 2015 年ベトナム視察ツアーの報告で、安藤勇神父が「見知らぬ社会 Bu Dang」として、ビン・フック省（Binh Phuoc）ブ・ダン県(Bu Dang) ダン・ハ村（Dang Ha）の大変な生活について、また、村人の自立支援の「ヤギ銀行」づくりの支援を始めたことが報告されています。今年は、その間支援がどのように進められているのかを見に行き、ヤギを飼育している２軒の農家を訪ねて話を聞くことができたので報告します。

日本から JAPA-VIETNAM の安藤神父、中野さん、平井さん、ニャー(Nha)さん、五井が参加し、HCM 市からボランティアの若いベトナムの男性ホアン(Hoan)さん、ビィン(Bien) さん、通訳のタオ(Thao)さんが加わり、ミニバスで、カンボジアと国境を接するビン・フック省へと向かいました。

９月５日にはブ・ダン 県と隣合わせのフック・ロン県(Phuoc Long)にある支援先のロン・ディエン(Long Dien)少数民族の子供達の寮を訪ねてから、舗装されていない穴だらけの山道を越えてブ・ダン 市に到着し、その夕方にヤギプロジェクトを行っている HCM にある支援団体のメンバーのガー（Nga）さんからプロジェクトの説明を聞きました。ヤギの飼育には妊娠出産などに伴う不測のことも多く、また飼育の水や餌などから問題が起こることもあるので、なかなか計画通りにはいかないとのことが報告されました。現在は、一箇所に集めて集団で飼育することで、負担の軽減や飼育方法の改良ができるかについても考えているところとの説明もありました。また、野菜栽培を行って安定した収入が得られるかなどについても考えているとの話もありました。その日は市内に泊まり、翌朝ダン・ハ村への途中にある、トン・ニャット町(Thong Nhat)の教会で、案内役のガー(Nga)さんと、トン・ニャット町のトゥ(Tu)神父を加えたグループで、ヤギ小屋の農家を訪ねました。

（ヤギ飼育小屋）

途中は低い山を越える峠の道（トラックの轍ででこぼこの穴ができた赤褐色の土の道）を通り、１軒目の農家がある、「文化集落 2」と書かれたゲートを過ぎて集落に着きました。その先の農道を両側に広がる緑豊かな田んぼを見ながら更に 10 数分くらい走ると、平地の外れに小さな丘陵が見えてきます。その斜面には、牛が放牧されており、丘陵が続くあたりに建つ木造の一戸建てが目的の農家で、ご主人のチュン(Chung)さん 33 才が子供を抱いて出迎えてくれました。竹で組んだ小屋で床を高くしたヤギ小屋には、耳の長い白黒のしま模様が５匹、ぶちが１匹、白が３匹、黒１匹の計 10 匹が飼育されていました。農家の周辺には小川が流れ、広い草地もあり自由に放牧もできるそうです。また、小屋の隣には牛舎もあり、またそばの空き地では柵で囲って 10 頭程度の豚も飼われていました。ここでは、隣接する親戚の農家が３軒で共同して飼育しており、ヤギの飼育は比較的順調にいっている様子が見られました。

そこから先の農家につながる丘陵地域の狭い山道は、バイク以外では行くことができず、ここからは徒歩になりましたが、時間の都合もありその先の農家には行けず、途中で引き返えしました。小道の斜面は植樹され管理もされている様子が見られました。村の農道では、KUBOTA 製の稲刈り機ともすれ違いました。

（ヤギ飼育農家見学）

２軒目のヤギ農家は、文化集落を出て、主要路（片側１車線）をトン・ニャット 町に戻る途中で、ミニバスがやっと通れる細い山道に入り、所々で道を覆うようにたれ下がってくる木の枝を、トゥ神父が車から降りて両脇に寄せながら先導されて十数分かけて辿りつきました。奥まった所にあり、車を降りて数 10mくらいの広いゴムの林（樹皮の表面にらせん状の切り込みを入れて、流れ出る白い樹液を容器で受け集めている）の中を通り、コーヒーの木の脇を抜けると、こじんまりとしたコンクリートづくりの家が現れたのには少し驚きました。家の周りには柑橘類や椰子の木などが育ち、豊かな自然に囲まれた一軒屋の、広い敷地の一角に１軒目と同様の竹組のヤギ小屋では親２匹、子供２匹（５ケ月）の計４匹のヤギが元気に飼育されていました。農家では小学生と思われる２人の男の子をもつお母さんが対応してくれました。また庭先にはパラボラ型のアンテナがあったことは印象に残りました、子供達の学校がどのあたりなのかについて聞くことができませんでした。農家までの細道の途中の５～10mくらいの川に架かる橋が、バイクが渡れる程度の木造の旧橋と並んで、マイクロバスも通行できる新しい鉄組みの橋が完成し使用されていました。今後この橋が奥地に住む農家の生活に大きな影響を与えるだろうと強く感じました。

今回訪ねた農家は、町から遠く不自由なことも多いと思いますが、緑と自然に恵まれ、その表情が明るかったことがとても印象に残りました。

キエン・ザン省（Kien Giang）コー・チャン（Co Trang）の雨水槽

村山　良忠

ベトナムは、弓手をダナン(Da Nang)に、東海（南シナ海）に向かって矢を番え引き絞った形をしている。キエン・ザン省は射手の足元にある。つまりは、ベトナムの南西の端。しばしば見る水路は、ここもメコンデルタの一部なのだということなのだろうか。国道 80 号はラクザ(Rach Gia)の町からカンボジアとの国境近くの町ハ・ティン(Ha Tien)へと海岸に並行して走る。道に沿って家並みが続く。車は、その道をそれ、水路を走る船を通すためにしては不必要に高い歩道橋としか思えない橋を登っていった。地上に降りた車は、新たな水路を右手に見ながら細い道を進む。しばらく走って、最後はバイクに分乗して、ようやく援助する対象に選ばれている家の一つに着いた。

ここで援助するのは雨水槽だ。メコンデルタのあるところで井戸を見せてもらったが、地下深くから汲み上げた水は土の色そのものだった。それを機械で 2 回濾してようやくシャワーなどに使えるようになる。飲料にはもう１回、飲料用の濾過をしなければならない。かなりの費用がかかりそうだ。だから貧しい人のために雨水の貯水槽をというプロジェクトなのだろう。

メコンデルタ地域では、水路に張り出して建てた家が連なる光景をごく普通に目にする。ここで訪問した家も、そうした家のひとつだった。道から入ると入り口から居間、台所、水路への張り出しとなる。広さは昔の日本の棟割長屋とあまり変わらないのかもしれない。台所だけでなく居間も床は土間だということと、向こう側が水路だということが違う。水路には、あまりに心細い杭の上に、枝で作った繊細な簀の子が渡されている。（お見せできないのが残念だが、実はこの簀の子、実用よりも美しさを優先したと思えるほどに繊細だ。）ここで洗濯もできれば、洗い物もできるだろう。トイレもここにある。困るのは飲み水。飲み水は雨水に頼ることになる。手に入る容器という容器が雨水を貯めるものに使われている。

本当は屋根に降った雨を樋で貯水槽に集めたいが、そのためには屋根をきれいにしなければならない。とりあえずは、口の広くあいてたくさん貯められるコンクリート製の貯水槽が欲しいという。この人たちが何もしないわけではない。家の土間にあったものに感動さえ覚えた。巨大なビニール袋に大量の水が蓄えられている。

口はしっかりと結わかれて、水の圧力を口にかけないようにだろう、天井からつるされている。こんなに大きく丈夫なビニール袋をどこで手に入れたんだ、この貯蔵で衛生的なのか、そんな疑問は後から湧いてくるが、その時は圧倒的な液体の前に絶句した。人は水なしには生きることはできない。生きるための水の確保に知恵を尽くす。われわれは、そのお手伝いをするというわけだ。

イェン・バイ省(Yen Bai)フィン・ホ(Phinh Ho)村　少数民族の村を訪ねて

中野　孝文

今年のツアーで初めてイェン・バイ省にある少数民族の村を訪問した。イェン・バイ省はハノイの北西方向に位置し直線距離で約 130 ㎞。最近は高速道路が通じて 2 時間弱のドライブで繋がっている。ただ我々の訪れた少数民族のフィン・ホ村は、省都イェン・バイ市から車で２時間弱かけて一山超えギア・ロ町（Nghia Lo）に入り、そこから更に急峻な山道を 1 時間弱登り目指すフィン・ホ村に到着する。すれ違いの出来ない狭い山道を登っていくと眼下にギア・ロの水田地帯が広がる。フィン・ホ村は 1,600mの高度にあり冬は雪も降る。この村から一山を越えると隣のソン・ラ省（Son La）に入る。まさに山奥に入り込んだ中にある。

フィン・ホ村はフモン族（Hmong）の住む村で人口 2,000 人ほど。山間に家屋が点在し猫の額ほどの庭先、急峻な山の斜面に栽培するお茶を生業としていて、経済的に貧しい山村である。幸いに麓から細いながらも送電線がこの村に繋がっていた。水は恐らく山の湧水です。

この村を知ったのは若いベトナム人のグループからの紹介です。ハノイ市に住む２０代の彼らは山間部の少数民族の子供たちへの支援をしている。ジャパ・ベトナムとの交流の中で我々にこの村の紹介があり、支援要請がありました。今回の訪問はこのグループの四人の若者と一緒にフィン・ホ村に現状視察で訪れました。

お話を伺ったのはこの村にあるキリスト教会のフック神父（Phuoc）で、２年前にこの地に赴任され活動されています。小さな狭い村の中心地には学校、人民委員会そしていくつかの商店が数十メートルほどの間にあり、教会もここから横道の坂を登った先にあります。ここではフック神父が貧しい村の生活改善の為に、茶の生葉を乾燥・熟成・撚転そして包装する設備類を新たに設置していました。ちょうど村の人々が集まりお茶の選別を手作業で行っていました。

これが導入されるまでは村人が摘んだ生葉は外部の業者にそのまま引き取られていました。この設備により力を合わせ自分たちでお茶として付加価値を高め外部に出せるようになり、また教会が決まった価格で生葉を買取ることで安定した収入を村の人々は得ることが出来るようになりました。幸いに行政（税務署）も事業をしている事を知りながら、「貧しい人々の自立のためのものである」と見て見ぬふりをしているとのことです。製造されたお茶も他省にある修道会に売られており、従来の製造・販売の流通には問題が起きていません。

私はジャパ・ベトナムの活動に４年前に参加して初めてベトナムの少数民族に触れました。北部カオ・バン省(Cao Bang)、南部ビン・フック省、ホーチミン市などで現場の一端を見てきました。そこから見える少数民族の人たちの生活は様々でした。ごく普通の農村部の生活であったり、電気のない生活であったり、掘立小屋や

裸足の生活であったり、綺麗な民族衣装を日常生活で着ていたり、様々な生活をみました。

別の地域で少数民億支援をしている人の話では学校を卒業し村の外に出ても子供達は村に戻ってくると言われる。ハノイに住む私の古くからの知人の一人は私が少数民族の地域訪問の話をすると何に対してかは触れずに注意して下さいと言う。そして多くのベトナムの友は良いことをしていますね、と言われる。一方で、ベトナム経済が急速に発展し政府の長期的な貧困対策も進んできている。いつもは辛口の知人も「政府はよくやっている」と言われる。

今回フィン・ホ村訪問でベトナムの若い人達の活動に触れ大変嬉しく思いました。南部でも若い人達の同様な活動に触れ、これからのベトナムを考えるのに大変心強く思いました。

ベトナム・ツアー2016 年 9 月　訪問先で

バック・ニン省エイズ家庭自立グループ

ゲ・アン省フン・チュン村診療所

HCM 市エイズ家庭子供達自立支援

HCM 市エイズ無償診療所

HCM 市弱者自立支援グループ

ソック・チャン省農漁村生活支援

ハウ・ザン省聖ヨセフ小学校

カ・マウ省老齢障碍者支援

＊ご協力ありがとうございます＊

2016年5月15日～2016年9月29日までの会費・寄付納入者のお名前です（敬称略）

青沼　酉子	東京都
阿部　節子	愛知県
イエズス会社会司牧センター	東京都
生田　光輝・英子	京都府
匿名希望	北海道
市川　匡四郎	ベトナム
逸見　裕一	埼玉県
井出　公平　カトリック大牟田教会	福岡県
今川　節子	東京都
Vu Thi Phuong	兵庫県
岡田　典子	東京都
小沢　昌子	東京都
岸　秀雄	神奈川県
Kim Ha	東京都
Nguyen Van My	兵庫県
Nguyen Thanh Vu	兵庫県
Nguyen Thi Ngai	兵庫県
Nguyen Thi Kinh	兵庫県
Nguyen thi Ngoc	神奈川県
Nguyen Thi Thanh Trang	兵庫県
Nguyen Thi Tam	兵庫県
Nguyne Thi Dan Thanh	兵庫県
Nguyen Thi Thanh Huong	兵庫県
グエン・ティ・マイ	神奈川県
Nguyen Thi Mau	兵庫県
倉恒	兵庫県
倉澤　伸子	大阪府
五井　邦宏	埼玉県
駒込　直美	京都府
櫻井　崇之・美幸	愛知県
櫻井　實・優子	茨城県
佐竹　道子	長野県
Jessie　田山	東京都
渋谷　節子	東京都
嶋田　弘志	東京都
島村　晶子	東京都
鈴木　昌範	神奈川県

須田　俊子	東京都
聖母訪問会モンタナ第二修道院	神奈川県
高野基金	東京都
高橋　正章	東京都
武市　英雄	神奈川県
武永　賢	東京都
Tran Thi Ngoc Anh	兵庫県
Tran Anh Ngoc	兵庫県
Do Van Muoi	兵庫県
匿名	東京都
戸村　信子	長崎県
鳥井　恵子	兵庫県
中嶋　俊之	東京都
中野　孝文	神奈川県
西村	兵庫県
西山　正子	東京都
根岸　寿	兵庫県
橋本　直樹	神奈川県
Ha Thi Liet Oanh	神奈川県
原　茂	千葉県
原　悌二郎・章子	東京都
平林　生子（匿名）	東京都
藤井　訓子	広島県
Ho Khen	兵庫県
Ho Samy	兵庫県
Ho Thanh Huy	兵庫県
松尾　民博・千枝	東京都
圓山　節子	東京都
みさとのパン工房SAKURA	埼玉県
村上　キチ子	東京都
村山　良忠	東京都
柳下　修	神奈川県
大和ベトナム人カトリック共同体	神奈川県
山本　喜代子	東京都
山本　昌子	東京都
吉岡　龍太郎	福島県
Le Thi Phuong	兵庫県
Le Hai Hoang Yen	兵庫県
Long Linh	兵庫県

＊お知らせ＊

講演会・ツアー報告会のお知らせ

今年の講演は、漆工芸家の濱義文氏を講師にお迎えし、ベトナムの漆工芸に深く入り込まれている濱氏に、ベトナムでの漆工芸の現状などお話をお伺いします。

今年のツアーではキエンザン省、イェンバイ省と新しい訪問先が二か所あります。訪問先での写真を中心に今年のツアーの状況をご報告いたします。

日時：２０１６年１２月４日（日曜日）
　　１３:３０～１５：３０　（開場１３：００）
場所：四谷・岐部ホール４０４号室
会費：500円　（お茶、お菓子付き）

濱義文先生

◆◆◆会計報告◆◆◆

（2016 年 5 月 15 日～2016 年 9 月 29 日）

募金会計		活動費会計	
（収入）		（収入）	
一般会費	601,443	活動費寄付	52,000
賛助会費		バザー売り上げ	0
助成金	300,000	雑収入	0
普通利息	5		
雑収入	0		
小計	901,448	小計	52,000
（支出）		（支出）	
支援金	1,870,000	活動費	2,370
送料手数料	0	印刷費	5,455
		文具資料費	0
		通信費	12,456
小計	1,870,000	小計	20,281
前期繰越金	1,287,094	前期繰越金	21,932
当期収支	▲968,552	当期収支	31,719
次期繰越金	318,542	次期繰越金	53,651

支援金・助成金の内訳
助成金　　300,000 円
◆高野道郎メモリアルジャパナム
- エイズ子供ケアー　100,000 円
- 聖ヨセフ小学校　100,000 円
- エイズ子供健康保険　100,000 円

支援金　1,870,000 円（助成金含む）
- スラム自立　100,000 円
- エイズ診療所　300,000 円
- 聖ヨセフ小学校　300,000 円
- エイズ子供ケアー　100,000 円
- 橋補修　150,000 円
- 障碍者食糧ほか　180,000 円
- 飲料水貯水施設　150,000 円
- エイズ子供健康保険　200,000 円
- 診療所歯科治療台　300,000 円
- 少数民族ケア（ブ・ダン）　30,000 円
- 少数民族ケア（イェン・バイ）30,000 円
- 少数民族子供寮　30,000 円

＊＊＊＊＊

資金が不足しております。　ご支援をよろしくお願い致します

JAPA VIETNAM をご支援ください

●一般会費　年間１口（2000 円）以上
●賛助会費　金額・時期ともご自由に
●活動費寄付　活動費の支援（金額自由）

どれになさるかはご自由にお選びください。
ご都合に応じてご送金いただければ幸いです。
会費をお振込みいただいた方には、振込の半券で領収書とさせていただいております。領収書が必要な方は、振込用紙の通信欄の「□領収書必要」の□にチェックを入れてください。
事務費削減にご協力いただけると幸いです。

【ご送金は郵便振替で】
00100－8－118761
JAPA VIETNAM
◆
【銀行をご利用の場合は】
三菱東京 UFJ 銀行 四谷三丁目支店
東京女子医大出張所（店番 315）
普通預金　3544236
JAPA VIETNAM 代表 安藤勇

＊＊＊＊＊

会報名『チャオ・ベトナム』について

「チャオ」（chào）とはベトナム語で「こんにちは」という意味です。『チャオ・ベトナム』というタイトルには、ベトナムの人たちと友情のネットワークを築いていきたい―という、私たちの願いがこめられています。

ベトナムの未来にあなたの力を

ジャパ・ベトナム
（日本ベトナム民間支援グループ）
JAPA VIETNAM
(JApanese group of Private Assistance to VIETNAM)
〒102-0083 東京都千代田区麹町 6－5－1
岐部ホール 4 階
イエズス会社会司牧センター内
◆
電話 03-5215-1844　FAX 03-5215-1845
◆
e-mail:japavietnam2014@gmail.com
http://www.japa-vietnam.org/
Face Book; japavietnam